

①二十一日。卯の時ばかりに船出だす。みな人々の船出づ。これ(＝船)を見れば、春の海に秋の木の葉しも散れるやうにぞありける。おぼろけの願によりてにやあらむ、風も吹かず、よき日出で来て、漕ぎ行く。

②この間に、使はれむとて、つきて来る童あり。それが歌ふ船唄、
なほこそ国の方は見やられるれ わが父母ありとし思へば 帰らやと歌ふぞあはれなる。

③かく歌ふを聞きつつ漕ぎ来るに、黒鳥といふ鳥、岩の上に集まり居り。その岩のもとに、波白く打ち寄す。楫取りの言ふやう、「黒鳥のもとに、白き波を寄す。」とぞ言ふ。この言葉、何とにはなけれども、物言ふやうにぞ聞こえたる。人のほどに合はねば、とがむるなり。

かく言ひつつ行くに、船君なる人、波を見て、「国より始めて、海賊報いせむと言ふなることを思ふ上に、海のまた恐ろしければ、頭もみな白けぬ。七十ぢ、八十ぢは、海にあるものなりけり。

わが髪 of 雪と磯辺の白波といづれまさされり沖つ島守
楫取り、言へ。」

二十一日：九三五年正月二十一日。

悪天候のため、室津(高知県室戸市)に停泊していた。

おぼろけの願：並々でない祈願。

この間に：ところで。

なほこそ国の方は見やられるれ

…ここで一旦文が切れる。

帰らや：帰ろうよ

黒鳥：黒鴨のことか。

物言ふように：しゃれたことを言う

ように。

人のほど：船頭という身分。

とがむるなり：気に留めるのである。

船君なる人：船の主人。貫之を指す。

国より初めて：出発したときから。

海賊報いせむと：海賊が報復するだろうと

沖つ島守：沖の島守

楫取り、言へ。：楫取り(船頭)よ、

沖の島守に代わって答えてみよ。

〈予習〉

調べた語句	本文中の意味	調べた語句	本文中の意味

この文章について他のグループの人に伝えるため、左の内容を完成させよう。(現代語訳ではないので、内容が分かるように説明できていれば良い)

①二十一日。() に船を漕ぎ出す。船を見ると、() 。

②ついてきた童が () () と歌うのが () 。

③そのうちに、黒鳥という鳥が岩の上に集まり、波が白く打ち寄せる。楫取りが () () 。

このように言いながら行くと、船君である人が () () と言う。そして楫取りに向かって () () という歌を詠み、返事を求める。

〈表現の特徴〉左の空欄に記入